

科目名	家庭科教育法		
担当教員名	田中 和江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教員の免許状（中学校 家庭・高等学校 家庭）取得のための必修科目。

家庭科教育法 、 、 の科目のうち3つ目にあたる。

科目の概要

授業における指導力をつけるために、家族・家庭生活、衣食住生活、消費生活などの各領域について指導上の理解を深めるとともに、中・高校生向けの授業づくりや模擬授業を通して指導実践力を身につける。

学修目標（=到達目標）

- ・1単位時間の授業を構想し、学習指導案やワークシート等を作成できる。
- ・模擬授業を行い、家庭科授業を行うために必要な教授技術が理解できる。
- ・家庭科授業を実施するために重視すべき事項を説明できる。

内容

第1回：家庭科教育法 を学ぶにあたって（授業のねらい、授業計画、評価方法などについて）

第2回：教材開発1（教材開発の視点、教材開発方法）

第3回：教材開発2（家族・家庭生活と福祉の内容）

第4回：教材開発3（食生活と健康の内容）

第5回：教材開発4（消費生活と衣生活の内容）

第6回：教材開発5（住生活と環境の内容）

第7回：中・高等学校での授業観察

第8回：指導案検討（学習指導案、教材プリント、板書計画）

第9回：模擬授業の発表1（家族・家庭生活と福祉の内容、講義形式または演習形式で）

第10回：模擬授業の発表2（衣食生活の内容、講義形式または演習形式で）

第11回：模擬授業の発表3（食生活の内容、講義形式または演習形式で）

第12回：模擬授業の発表4（住生活の内容、講義形式または演習形式で）

第13回：模擬授業の発表5（消費生活の内容、講義形式または演習形式で）

第14回：模擬授業の発表6（環境分野の内容、講義形式または演習形式で）

第15回：模擬授業発表の評価・分析

評価

レポートまたは課題50点と、演習（模擬授業 他）50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各領域の事例検討のほか、模擬授業の発表の際は、指導案・ワークシートを作成する。

【事後学修】各講義における自分の意見を記録する。模擬授業後は、改良版の指導案・ワークシートを作成する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」教育図書、2008

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（家庭編）」開隆堂出版、2010

【推薦書】授業内に紹介する。

【参考図書】適宜指示する。

科目名	家庭科教育法		
担当教員名	田中 和江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教員の免許状（中学校 家庭・高等学校 家庭）取得のための必修科目。

家庭科教育法 、 、 、 の科目のうち4つ目にあたる。

科目の概要

中・高等学校家庭科の学習指導の原理や教科の独自性を生かした学習指導方法について概説する。また、生徒の学習活動を支援する指導方法の工夫や実験・実習を積極的に取り入れ、授業実践のための基礎的な考え方と方法を習得し、教職に対する動機づけをする。

学修目標（＝到達目標）

- ・家庭科学習上の諸問題をふまえて、家庭科指導の特質や指導の在り方について考察できる。
- ・授業実践をふまえながら、生徒に応じた学習指導の工夫を考察できる。
- ・家庭科の授業分析を行い、良い授業とは何か自分なりの考えをもてる。

内容

第1回：家庭科教育法 を学ぶにあたって（授業のねらい、授業計画、評価方法などについて）

第2回：中等教育における家庭科教育

第3回：中学校家庭科の授業実践の検討1

第4回：中学校家庭科の授業実践の検討2

第5回：高等学校家庭科の授業実践の検討1

第6回：高等学校家庭科の授業実践の検討2

第7回：指導案検討（学習指導案、教材プリント等）

第8回：模擬授業の発表1

第9回：模擬授業の発表2

第10回：模擬授業の発表3

第11回：模擬授業の発表4

第12回：模擬授業の発表5

第13回：模擬授業の発表6

第14回：模擬授業発表の評価・分析

第15回：これからの家庭科教師に求められる資質

評価

レポートまたは課題50点と、演習（模擬授業 他）50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各領域の事例検討のほか、模擬授業の発表の際は、指導案・ワークシートを作成する。

【事後学修】各講義における自分の意見を記録する。模擬授業後は、改良版の指導案・ワークシートを作成する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」教育図書、2008

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（家庭編）」開隆堂出版、2010

【推薦書】授業内に紹介する。

【参考図書】適宜指示する。

科目名	教育相談		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学級担任としての教育相談的対応のためには、他の教師やスクールカウンセラーとの連携による組織的な指導援助を欠かすことができない。学生自身が主体的に学び、相互に意見交流をする体験を通して、教師として大切な協働の精神や人間関係形成力を身につける。

科目の概要

学校教育において個に応じたきめ細かな指導を進めるために、児童生徒理解は欠かすことはできない。指導にあたる教師が児童生徒のありのままを受け止め、教育相談的にかかわることができるようにするため、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考慮する。

学修目標 (= 到達目標)

- (1)教育相談やカウンセリングの歴史及び基本的な理論について理解し、学校教育相談の意義や課題について考察する。
- (2)学校において生徒指導の中核をなす教育相談の果たす役割について理解し、カウンセリングマインドによる具体的な指導のあり方について考察する。
- (3)学校教育相談の進め方について理解し、カウンセリングの基礎的な技能を身につける。

内容	
1	学校教育と教育相談
2	教育相談の動向と課題、小学校における子どもの問題 (不登校、いじめ等)
3	中学生・高校生の発達と発達課題
4	中学生・高校生における気になる行動や問題行動
5	中学生・高校生をめぐる最近の話題
6	発達障害と精神疾患の理解と支援
7	教育相談の理論
8	教育相談の技法
9	学級経営に生かす教育相談
10	学校で使える心理アセスメント
11	保護者への理解と支援
12	校内及び関係機関との連携、教育相談の実際
13	スクールカウンセラーの活用、教育相談模擬体験
14	教育相談実習 (家族・性格の問題、進路・人間関係の問題等)
15	まとめ、

評価

出席 2 / 3 以上必須、毎回の授業の振り返り、レポート課題、発表等の平常点が評価40%、試験による評価が60%で、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前準備】事前に出された課題について調べ、教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「教師のたまごのための教育相談」会沢信彦、安斉順子 編著 北樹出版

【推薦書】

「小学校学習指導要領」文部科学省

「学級教育相談入門」有村久春 著 金子書房

「生徒指導と教区相談」教職教育講座第5巻 長谷川栄、杉原一昭 編 共同出版

科目名	教育実習		
担当教員名	田中 和江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教職課程必修の教育実習事前事後指導

科目の概要

教科教育法や教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。

学修目標(= 到達目標)

参観実習および教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

内容

1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

評価

教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。形式は、レポート50点、実習日誌50点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】教育実習配当校との事前準備
- 【事後学修】教育実習配当校との事後評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。

科目名	教育実習		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

参観実習及び経壇実習の製菓を最大限に引出し、教職をめざすものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする

科目の概要

教科教育法や教科関連科目によって修得してきた知識・理論・方法等を踏まえたうえで、実際に教育実習を行うにあたっての具体的な事前・中間・事後の指導を行う

学修目標 (= 到達目標)

上記内容の達成を学修目標とする。教育実習に直接かかわる科目であり、情熱と問題意識をもって積極的に取り組んでいくことが肝要である。

内容	
1	事前指導 教育実習オリエンテーション
2	事前指導 実習時における勤務・サービスの心得
3	事前指導 実習記録の作成法
4	同上
5	事前指導 配当科目についての最終的な指導案の作成
6	事前指導 事前模擬授業実施
7	同上
8	同上
9	事前指導 実習校事前訪問指導
10	中間指導 実習を振り返り反省会
11	中間指導 日誌の中間提出
12	中間指導 事後実習に向けての指導
13	事後指導 実習校事後訪問指導
14	事後指導 教育実習報告書作成指導
15	まとめ 教育実習報告会の実施

評価

授業への参加、教材研究や模擬授業課題の状況、教職をめざすものとしての心構えの理解や授業運営能力などを総合的に評価する。事前模擬授業実施20%、教育実習日誌内容60%、報告書作成や報告会参加20%とし、総合評価60点以上を

合格とする。

授業外学習

【事前準備】 定めた資料に必ず目を通し準備を行って授業に参加すること

【事後学修】 授業の内容を言語化し、繰り返し修得すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 教育実習校で各自使用した教科書

【推薦書】 必要に応じて、適宜指示する

【参考図書】 必要に応じて、適宜指示する

科目名	教育実習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

「教職に関する科目」の必修科目で、英語科教科教育法Ⅰ～Ⅳや教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえる。

科目の概要

実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。

学修目標（＝到達目標）

この指導により参観実習および教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

内容

1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

評価

授業への参加、教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。評価は、模擬授業40点、教材研究20点、レポート20点、実習20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】模擬授業の教案作成・教材作成（最低2時間）

【事後学修】模擬授業のコメントを受け、教案を修正する（最低30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教科教育法や教職関連科目等によって修得してきた教職に関する知識・理論・方法論を踏まえたうえで、実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前事後の指導を行う。この指導により参観実習及び教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

内容

1. 事前指導

(1) 教育実習オリエンテーション

- ・実習の目的
- ・実習における勤務等の心得
- ・実習記録の作成法

(2) 実習中における課題の設定について

(3) 実習校訪問について

2. 事後指導

(1) 教育実習報告会

- ・実習の総括
- ・課題取組内容とその成果の発表

(2) 実習校訪問

(3) 実習記録簿の提出

評価

提出物、報告会などの授業態度等を総合的に評価する。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】3年生までの教職関連科目の修得を前提に実施するため、各自で復習をしておく必要がある。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業の際に指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	田中 和江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「家庭科」(3 週間以上の実習期間の者を対象とする) 前期実習 (選択) である。

科目の概要

1 . 教科関連科目・教科教育法、教育実習 で修得してきたことをふまえて、教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。

2 . 学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

学修目標 (= 到達目標)

教育実習を通して、教職に関する理解を深め、教員としての資質を見極める。

内容

協力校における 3 週間以上の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

授業外学習

【事前予習】実習校の指示に従う。

【事後学修】実習校の指示に従う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。

科目名	教育実習		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職科目、教職関連科目、教育実習 で習得してきた内容をふまえて、実際に学校現場で授業を担当し、教職をめざす者としての総合的力を身に着けることをねらいとする。なお本科目は、教育免許状に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「福祉」（3週間以上の実習期間の者を対象とする）の増加単位（選択）の2単位分に相当する。

科目の概要

これまで習得してきた教科・授業方法等に関する知識を主体的・実践的なレベルに転換し、学校現場での実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性や能力を自己覚知すること

学修目標（=到達目標）

上記の内容・課題の到達である。

内容

教育実習校における3週間以上の授業担当による教育実習を行う。

評価

教育実習校からの評価資料60%、研究授業実践状況20%、「実習日誌」等の資料20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前準備】実習に向けて健康管理を十分に行い、学んだことが発揮できるよう事前学習を行うこと
- 【事後学修】実習先の校長先生はじめ、生徒にも感謝を込めてお礼状を発送し、実習記録や出勤簿等の事後処理を確実に行うこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】教育実習校で各自使用する教科書
- 【推薦書】必要に応じて、適宜指示する

科目名	教育実習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	00クラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/ 中学校教諭一種免許状（社会）/ 高等学校教諭一種免許状（公民）/ 高等学校教諭一種免許状（英語）/ 中学校教諭一種免許状（英語）/ 高等学校教諭一種免許状（福祉）/ 高等学校教諭一種免許状（家庭）/ 中学校教諭一種免許状（家庭）/ 高等学校教諭一種免許状（保健）/ 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教科関連科目・英語科教科教育法Ⅰ～Ⅳ・教育実習 で修得してきたことをふまえる。

教員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校一種「英語科」の前期実習（必修）、高等学校一種「英語科」（3週間以上の実習期間の者を対象とする）前期実習（選択）である。

科目の概要

学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

学修目標（=到達目標）

これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。

内容

協力校における3週間以上の参観実習および教壇実習からなる授業担当による教育実習を行い、専門教科の教授法だけでなく、ホームルーム等を通じてクラス管理のノウハウも学ぶ。

評価

実習校からの評価資料80点、及び「教育実習日誌」等の資料を20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当する授業の準備に最低2時間

【事後学修】実習ノートの整理、授業後のプリント、小テスト、持ち越した質問の回答の準備に最低2時間

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】実習校の指示に従い、該当する教科用図書等を事前に手に入れておく。

科目名	教育実習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教科関連科目・教科教育法，教育実習 で修得したことをふまえて，教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに学修した教科，授業方法等に関する知識を実践的な知識に変換し，教員を目指す者としての実践的能力をつける。学校現場での実際の勤務経験をとおして自身の教員としての適正を見極める。

内容

教育実習校における 3 週間以上の授業担当による教育実習を行う

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】 3 年生までの教職科目の修得を前提に実施するため、各自での復習が必要となる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業の際に指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	田中 和江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「家庭科」（2週間の実習期間の者を対象とする）実習（必修）である。

科目の概要

1. 教科関連科目・教科教育法、教育実習 で修得してきたことをふまえて、教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。

2. 学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

学修目標（=到達目標）

教育実習を通して、教職に関する理解を深め、教員としての資質を見極める。

内容

協力校における2週間以上の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

授業外学習

【事前予習】実習校の指示に従う。

【事後学修】実習校の指示に従う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

科目名	教育実習		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

実際に学校現場で授業を担当する。教職科目、教職関連科目、教育実習 で習得してきた内容をふまえて、実際に学校現場で授業を担当し、教職をめざす者としての総合的力量を身に着けることをねらいとする。なお本科目は、教育免許状に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「福祉」（3週間以上の実習期間の者を対象とする）の増加単位（選択）の2単位分に相当する。

科目の概要

これまで習得してきた教科・授業方法等に関する知識を主体的・実践的なレベルに転換し、学校現場での実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性や能力を自己覚知すること

学修目標（=到達目標）

上記の内容・課題の到達である。

内容

実習校における2週間の授業担当による教育実習を行う

評価

実習に対する意欲・関心・態度を50点及び実習先の実習評価を50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前準備】実習に向けて健康管理を十分に行い、学んだことが発揮できるよう事前学習を行うこと
- 【事後学修】実習先の校長先生はじめ、生徒にも感謝を込めてお礼状を発送し、実習記録や出勤簿等の事後処理を行うこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】教育実習校で各自使用する教科書
- 【推薦書】必要に応じて、適宜指示する

科目名	教育実習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教科関連科目・英語科教科教育法Ⅰ～Ⅳ・教育実習 で修得してきたことをふまえる。

教員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校一種「英語科」の実習（必修）、高等学校一種「英語科」（3週間以上の実習期間の者を対象とする）実習（必修）である。

科目の概要

学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

学修目標（＝到達目標）

これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。

内容

協力校における2週間の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料80点、及び「教育実習日誌」等の資料を20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当する授業の準備に最低2時間

【事後学修】実習ノートの整理、授業後のプリント、小テスト、持ち越した質問の回答の準備に最低2時間

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】実習校の指示に従い、該当する教科用図書等を手に入れておく。

科目名	教育実習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教科関連科目，教科教育法，教育実習，で修得したことを踏まえて，教育実習では実際に授業を担当する。これまでに学修した知識を実践的な知識に変換し，教員を目指す者としての実践的能力ををつける。さらに学校現場での実際の勤務経験を通して自身の教員としての適正を見極める。

内容

教育実習校における2週間以上の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】3年生までの教職科目の修得を前提に実施するため、各自での復習が必要となる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業の際に指示する。

科目名	教職実践演習（中・高）		
担当教員名	松岡 敬明、狩野 浩二、名倉 秀子、太田 真智子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職課程での学びの集大成として、将来教員になる上での自らの課題の発見、不足している知識や技能の補完と定着をねらいとして、教職生活を円滑にスタートするために必要な演習を行う。

科目の概要

(i)使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、(ii)社会性や対人間関係能力に関する事項、(iii)生徒理解や学級経営に関する事項、(iv)教科内容等の指導力に関する事項で構成する。

学修目標（=到達目標）

将来教員になる上で必要となる課題の発見ができ、その解決に必要な知識・技能を身につける。

内容	
1	オリエンテーション（講義，全体討議）【狩野、松岡、堀竹、向後】
2	教職の意義・役割・職務内容，子どもに対する責任について理解する 【松岡】
3	教育に関する問題点，社会からの要請を考える（調査演習・グループ討議）【堀竹】
4	教育に関する問題点・自らの課題を発見する（現地調査）【向後】
5	自己課題とテーマを発表する（プレゼンテーション，レポート）【狩野】
6	生徒の生活環境・教育環境を知る（グループ調査演習，事例研究）【松岡】
7	現在の生徒像から見た望ましい学級経営案の検討（グループ討議・イベント企画）【堀竹】
8	生徒の進路指導に関わる社会情勢の調査と理解（グループ調査演習・ロールプレイ）【向後】
9	学級経営案を発表する（プレゼンテーション，レポート）【狩野】
10	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（講義，グループ討議）【松岡】
11	教育内容の基本的事項の確認（個人演習）【堀竹】
12	教育方法の基本的事項の確認（個人演習）【向後】
13	模擬授業 【狩野、松岡、堀竹、向後、名倉】
14	模擬授業 【狩野、松岡、堀竹、向後、太田】
15	まとめ 【狩野、松岡、堀竹、向後】

評価

評価 レポート課題（3回程度），プレゼンテーション，討議におけるパフォーマンスを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートには、コメントを付して返却する。

授業外学習

【事前予習】 討議やプレゼンテーションに必要な事前資料の準備

【事後学修】 振り返りのためのレポート作成

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 各教科の学習指導要領、教科書

科目名	教職実践演習（中・高）		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職課程での学びの集大成として、将来教員になる上での自らの課題の発見、不足している知識や技能の補完と定着をねらいとして、教員生活を円滑にスタートするために必要な演習を行う。

科目の概要

教員として 1) 使命感や責任感、教育的愛情に関する事項 2) 社会性や対人間関係能力に関する事項 3) 生徒理解や学級経営に関する事項 4) 教科内容等の指導力に関する事項で構成する。

学修目標（=到達目標）

将来教員になる上で、必要となる課題の発見ができ、その解決に必要な知識・技能を身につける。

内容	
1	オリエンテーション これまでの教職課程の振り返り
2	教育に関する問題点・自らの課題を発見する（レポート）
3	教育に関する問題点・自らの課題を発表する（プレゼンテーション）
4	教育に関する問題点・解決策を討議する（討議）
5	生徒の生活環境・教育環境を知る（現地調査）
6	生徒指導に関わる現代的な課題の理解と対応（発表 討議）
7	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（講義 討議）
8	教育実習の振り返りと教科の評価を考える（講義 討議）
9	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（教職経験者による講義）
10	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（現地調査）
11	教育内容の基本的事項の確認（個人演習）
12	教育内容の基本的事項の確認（個人演習）
13	模擬授業
14	模擬授業
15	成果の発表 まとめ

評価

レポート課題、プレゼンテーション、討議における貢献度を総合的に評価して、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】討議やプレゼンテーション、模擬授業に必要な資料の準備をする

【事後学修】学修した内容を、学校現場でいかせるようにまとめをする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】

適宜指示する。

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	井上 久美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 この科目は、教育職員である栄養教諭実習一種免許状を取得するために必要となる科目です。小学校あるいは中学校における栄養教育実習「栄養教諭実習」のための事前・事後指導を中心にすすめていきます。栄養教育実習「栄養教諭実習」(通年科目)は、教育実習施設の受け入れ時期によって4年次のいずれかの時期になるため、本科目も連動しての開講となります(4年次通年科目)。

科目の概要 栄養教育実習の始まる前に、教育実習の意義や内容を理解し、教育職員としての栄養教諭の職務内容を明確化します。知識や技術を再確認して、意欲的に教育実習に取り組むことができる自信を導いていきます。

また、教育実習後には、実習での学びを整理し、問題点や今後の課題を抽出し、報告をまとめます。最後に、今後の栄養教諭の職務活動の展開を考えていきます。

学修目標 (1)教育職員としての自覚を持つ (2)対象となる児童・生徒に必要とされる適切な指導案の作成や、媒体・教材を作成できる (3)実施した栄養教育実習に関して発表・討議を行い、よりよい「食に関する指導」の提案や立案につなげることができる の3点です。

内容			
1	栄養教育実習	事前指導	栄養教育実習の意義・目的
2	栄養教育実習	事前指導	学校の現状と課題、求められる資質や能力
3	栄養教育実習	事前指導	学習指導の工夫、実践的指導力
4	栄養教育実習	事前指導	授業研究、教科別指導のとらえ方
5	栄養教育実習	事前指導	意欲、目標の明確化と心構え
6	栄養教育実習	事前指導	実習日誌の記録法や指導案の立案ポイントの理解
7	栄養教育実習	事前指導	教育実習校の実習計画の把握
8	栄養教育実習	事前指導	指導案・媒体の作成
9	栄養教育実習	事前指導	模擬 ・ 討議
10	栄養教育実習	事前指導	指導案・媒体の作成
11	栄養教育実習	事前指導	模擬 ・ 討議
12	栄養教育実習	事後指導	気づきのまとめ
13	栄養教育実習	事後指導	教育実習報告会準備
14	栄養教育実習	事後指導	教育実習報告会
15	まとめ		栄養教諭の職務活動の今後の展開を考える

事前・事後指導への参加態度30点、指導案作成への取り組み40点、提出課題レポート30点とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】教科書の該当する章をよく読みましょう。さらに、栄養教諭実践論、栄養教諭実践論で配布されたプリントなどの復習をしておきましょう。

【事後学修】教育職員としての視点を持つことを、常に意識しておきましょう。その上で、栄養教諭として求められることを明確にし、提供すべき正しく新しい情報を自ら収集しておきましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】笠原賀子編著〔栄養教諭のための学校栄養教育論〕医歯薬出版

【教科書】文部科学省〔小学校学習指導要領・中学校学習指導要領〕

【推薦書】金田雅代編著〔栄養教諭論 理論と実際〕建帛社

【参考図書】笠原賀子、岩間範子、香川明夫、松下広美著〔栄養教諭を目指す栄養教育実習ノート〕医歯薬出版

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	井上 久美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 本科目は、教育職員である栄養教諭一種免許状を取得するために必要となる科目で、「栄養教諭実習」での事前指導が前提となります。実施時期（4年次のいずれかの時期）ならびに実習内容は実習施設校によって異なりますが、いずれにおいても、教育現場である小学校や中学校での実際を観察、体験することで、教育職員としての知識や技術を確実に身につけていきます。

科目の概要 実習施設校である小学校や中学校での1週間の教育実習を行います。学校現場での職務について理解を深め、学校給食やその他の特別活動、各教科における担任や各教科担当者の教育活動、栄養教諭の教育活動を経験する中で、食の指導のあり方を学びます。

学修目標 （1）教員に関する理解を深め、その責任を理解する （2）成長過程にある児童・生徒の特徴を把握し、誠意をもって接する姿勢を持つ （3）大学で学んだ理論的、技術的な学習成果を実践して体得する （4）実践に伴う反省を欠かさず、次の実践に活かすための自己研鑽を積む必要性を理解する の4点とします。

内容

1	オリエンテーション（指導教諭から学校経営、校務分掌、サービスなどの説明）
2	学校給食・栄養教育の現状把握
3	「食に関する指導」の全体計画の理解
4	個別的な相談、指導の実習～相談・指導の場の観察実習・参加実習
5	担任による学級活動（給食の時間）における指導の観察実習・参加実習
6	～給食放送指導・配膳指導・後片付け指導など～
7	生徒集会、委員会活動、クラブ活動、学校行事における指導の観察実習・参加実習
8	担任と栄養教諭による給食の時間での指導の観察実習・参加実習
9	担任と栄養教諭によるその他の特別活動における栄養教育の観察実習・参加実習
10	教科担当者と栄養教諭による各教科における指導の観察実習・参加実習
11	特別活動や各教科における授業実習の指導案作成・実施・評価
12	食に関する指導の連携・調整の実習～校内における連携・調整の役割～
13	食に関する指導の連携・調整の実習～家庭・地域との連携・調整の役割～
14	研究授業の指導案作成・実施・評価
15	研究授業ならびに教育実習の反省とまとめ

評価

実習終了後に施設校長から得る評価（実習校の教育実習評価票の結果）を60点、教育実習ノートの記録を40点とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】栄養教諭実習での事前指導の内容を復習し、確認しておきましょう。

【事後学修】教育実習ノートを整理し、観察実習、参加実習、授業実習、そして研究授業での学びをそれぞれまとめておきましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】笠原賀子編著〔栄養教諭のための学校栄養教育論〕医歯薬出版

【教科書】文部科学省〔小学校学習指導要領・中学校学習指導要領〕

【推薦書】金田雅代編著〔栄養教諭論 理論と実践〕建帛社

【参考図書】笠原賀子 岩間範子 香川明夫 松下広美〔栄養教諭を目指す栄養教育実習ノート〕医歯薬出版

科目名	養護実習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

養護実習開始にあたり、教育職員免許法による養護教諭の免許取得に必要なとなっている「養護に関する科目」、「教職に関する科目」により、これまで学んできた知識やその方法等を再度確認することや、心理学領域で学習してきた知識の活用が実習時には大きな効果をもたらすことを認識させるために、ロールプレイングを取り入れた指導場を設定するなどして養護教諭としての役割と責任を自覚させることを目指すものである。

学修目標は、実習記録簿の扱い方や記入方法等を理解させる。児童生徒を目の前にした対応時に的確な判断と対応に、自分の持っている知識や技能を発揮し適切な対応でなければならないことを認識させる。連携の方法や必要性を再確認させる。

内容

1．事前指導

(1) 養護実習オリエンテーション

- ・実習の目的
- ・実習における勤務等の心得
- ・実習記録の作成法

(2) 実習中における研究課題の設定について

(3) 実習校訪問について

(4) ロールプレイングによる模擬演習

(5) 既習科目の復習

2．事後指導

(1) 養護実習報告会

- ・実習の総括
- ・課題取組内容とその成果の発表

(2) 実習校訪問

(3) 実習記録簿の提出

評価

提出されたレポート等については報告会の場でフィードバックする。提出物、報告会などの授業態度等を総合的に評価する。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】3年生までの教職科目の学修を前提に実施するため、各自で復習をしておく必要がある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：「学校保健実務必携」(学校保健・安全実務研究会 編著 第一法規)

科目名	養護実習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

大学において学習した理論・技術を基礎として、実際の現場に臨んで実地に実習することにより、学校教育全体を理解し、学校保健活動と養護教諭の職務が教育活動の一環として位置付けられていることを認識しながら、養護教諭としての職務の実際にかかわり、具体的な方法や処理の仕方等を身につけることを目指すものである。

学修目標は、実習校の教育目標などから学校の経営方針やその特徴を知る。 児童生徒への対応や判断方法など養護教諭としての執務に関する体験。 児童生徒への指導の体験。 事後措置の方法の体験。 他の教員や保護者等との連携方法の体験。

内容

1. 学校教育活動の理解と学校保健の位置づけとその組織の理解
2. 学校運営及び教職員の職務の理解
3. 教職員間の連携や相互協力の機会、方法についての理解
4. 養護教諭の役割と保健室経営について実務を通じた理解
5. 児童生徒の心身の健康実態及び健康課題の把握
6. 児童生徒の心身の健康課題への対応とその措置
7. 地域等の関係機関との連携について
8. 学校保健計画や学校安全計画の理解とその活動
9. 集団による保健指導等の実際
10. 教育者としての倫理観の体得について

評価

実習校から提出される勤務記録と実習評価票の結果及び実習記録簿を総合して評価する。実習巡回、実習後の指導において適宜フィードバックする。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】3年生までの教職科目の修得を前提に実施するため、各自で復習をしておく必要がある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：（学校保健・安全実務研究会編著 学校保健実務必携 第一法規）

「養護に関する科目」の中で養護教諭の職務等に関わる内容を整理したノートを持参すること

科目名	教職実践演習（栄養教諭）		
担当教員名	松岡 敬明、狩野 浩二、名倉 秀子、太田 真智子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職課程での学びの集大成として、将来教員になる上での自らの課題の発見、不足している知識や技能の補完と定着をねらいとして、教職生活を円滑にスタートするために必要な演習を行う。

科目の概要

(i)使命感や責任感，教育的愛情に関する事項，(ii)社会性や対人間関係能力に関する事項，(iii)生徒理解や学級経営に関する事項，(iv)教科内容等の指導力に関する事項で構成する。

学修目標（＝到達目標）

将来教員になる上で必要となる課題の発見ができ、その解決に必要な知識・技能を身につける。

内容	
1	オリエンテーション（講義，全体討議）【狩野、松岡、堀竹、向後】
2	教職の意義・役割・職務内容，子どもに対する責任について理解する 【松岡】
3	教育に関する問題点，社会からの要請を考える（調査演習・グループ討議）【堀竹】
4	教育に関する問題点・自らの課題を発見する（現地調査）【向後】
5	自己課題とテーマを発表する（プレゼンテーション，レポート）【狩野】
6	生徒の生活環境・教育環境を知る（グループ調査演習，事例研究）【松岡】
7	現在の生徒像から見た望ましい学級経営案の検討（グループ討議・イベント企画）【堀竹】
8	生徒の進路指導に関わる社会情勢の調査と理解（グループ調査演習・ロールプレイ）【向後】
9	学級経営案を発表する（プレゼンテーション，レポート）【狩野】
10	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（講義，グループ討議）【松岡】
11	教育内容の基本的事項の確認（個人演習）【堀竹】
12	教育方法の基本的事項の確認（個人演習）【向後】
13	模擬授業 【狩野、松岡、堀竹、向後、名倉】
14	模擬授業 【狩野、松岡、堀竹、向後、太田】
15	まとめ 【狩野、松岡、堀竹、向後】

評価

評価 レポート課題（3回程度），プレゼンテーション，討議におけるパフォーマンスを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートには、コメントを付して返却する。

授業外学習

【事前予習】 討議やプレゼンテーションに必要な事前資料の準備

【事後学修】 振り返りのためのレポート作成

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 各教科の学習指導要領、教科書

科目名	教職実践演習（養護教諭）		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

教職課程（養護教諭）の教職に関する科目での必修科目であり、養護実習を終えたことを前提として履修し学習する科目である。

科目の概要

教員として、使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、社会性や対人間関係能力に関する事項、生徒理解や学校・学級経営に関する事項、養護教諭としての指導力に関する事項で構成する。また、教職・養護に関する科目を担当する教員が連携して、学生の補完すべき課題の様相や養護教諭としての実践力向上への取り組みについて共通理解と情報共有を図りつつ、指導を行う。

学修目標

教職課程での学びの集大成として、受講生の履修履歴に基づき、教員になる上での自らの課題の発見、不足している知識や技能の補完と定着をねらいとして、養護教諭としての実践力向上に必要な演習を行う。

内容

第1回：オリエンテーション，これまでの教職課程を振り返る（講義，全体討議）

第2回：教職の意義・役割・職務内容，子どもに対する責任について理解する

（教職勤務経験者による講義）

第3回：教育に関する問題点，社会からの要請を考える（調査演習・グループ討議）

第4回：教育に関する問題点をふまえ自らの課題を発見する（現地調査）

第5回：自己課題とテーマを発表する（プレゼンテーション，レポート）

第6回：児童生徒の生活環境・教育環境を知る（グループ調査演習、事例研究）

第7回：生徒指導に関わる生活環境・社会状況に関する現代的課題の理解

（グループ調査演習、事例研究）

第8回：児童生徒の現代的な健康課題の理解とその解決への取り組みの検討

（グループ調査演習、事例研究）

第9回：保健室経営計画に関する講義と演習（講義と演習、全体・グループ）

第10回：現代的な健康課題を踏まえた保健室経営計画案の検討（演習・討議、ロールプレイ）

第11回：教育実習の振り返りと養護教諭としての指導力・実践力を考える（講義，グループ討議）

第12回：教育内容の基本的事項の確認（個人演習）

第13回：模擬授業、模擬場面指導

第14回：模擬授業、模擬場面指導

第15回：成果の発表（発表、全体）

評価

演習での学習活動及び提出物により評価を行う。評価の基準は、各自が設定した課題に対する取り組み状況とその成果が、

現場の実情に即して資質の向上につながっているという点である。

授業外学習

【事前予習】課題指示に沿って自らの学びや体験を客観的に整理すること

【事後学修】学修した内容を、学校現場でどのように実践するのかを考える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する。

科目名	基礎調理学（実習を含む）		
担当教員名	木村 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

日常的に利用されている食品をおいしく安全に調理するために、食品の特性や調理のプロセスでみられる食品の変化、調理操作の意味について科学的に理解することを目的とする。

科目の概要

人は毎日、様々な食品を調理・加工し、おいしく安全に食べることにより、心身の健康を維持し、社会的な活動を行っている。この科目は、日常的に利用されている食品をおいしく安全に調理する方法についての基礎的な知識を学ぶために、毎回異なる食品をとりあげ、食品の特性や調理の過程で見られる食品の変化や行われている調理操作の目的と意義について解説する。さらに、基礎的知識の確実な習得のために調理実習を数回行う。

学修目標（＝到達目標）

1. 食品材料や調理操作の基礎的知識を理解する。
2. 調理による食品の科学的な変化について学び、食品をおいしく調理するための方向性を理解する。
3. 食事設計の意義と献立作成の基本を理解する。

内容

1	調理学の意義、食事設計(献立作成)
2	食物の嗜好性(食物のおいしさの要因と評価)
3	調理操作の特性(加熱調理操作、非加熱調理操作)
4	食品素材と調理特性(米、小麦)
5	食品素材と調理特性(いも、豆、野菜)
6	食品素材と調理特性(肉・魚介)
7	調理実習：白飯、みそ汁、魚のてりやき、和え物
8	調理実習：パン、スープ、ハンバーグステーキなど
9	食品素材と調理特性(卵)
10	食品素材と調理特性(乳・乳製品、油脂)
11	食品素材と調理特性(果実、藻類、ゲル化剤)
12	調理実習：炊き込みご飯、茶碗蒸し、筑前煮
13	調理実習：マカロニグラタン、サラダ、コーヒー
14	調理実習：白飯、麻婆豆腐、凉拌茄子、?豆腐
15	授業全体のまとめ

評価

ペーパーテスト60点、レポート20点、授業への参加度20点で評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。ただし、ペーパーテストの受験およびレポート提出、いずれも満たしていることが単位修得の条件である。提出されたレポートはコメントを記載し、翌週の授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】教科書をよく読み、解らない点は参考書などで自分なりに調べる。

【事後学修】授業を聞きながら記録したノートと教科書、プリントなどをもとに復習し理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

畑江敬子・香西みどり編『新スタンダード栄養・食物シリーズ6 / 調理学』 東京化学同人

【参考図書】

柳沢幸江・柴田圭子編著『調理学 - 健康・栄養・調理 - 』 アイ・ケイコーポレーション

三輪里子監修 飯田文子・藤井恵子編著『改訂新版 あすの健康と調理 食を通して豊かなLife styleを』

アイ・ケイコーポレーション

科目名	養護教諭実践論		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

養護教諭の職務とされている保健管理を効果的に容易に実践できる資質を担保するために、これまで学んだ知識を基盤にしなが、必要となる実際的な事項について作成する、あるいは計画すること等について具体的に体験して学ぶものである。

科目の概要

学校教育法や学校保健安全法等に基づいた方法および技術的基準、事後処理等に関する具体的な方法、さらには保健管理をする上で必要となる計画等の作成方法について演習による体験学習をするものである。

学修目標（＝到達目標）

養護教諭の職務内容に基づいて、その具体的な方法や作成方法について学び、それぞれの方法等の留意点や活用方法を習得するものである。

内容

1	オリエンテーション 「保健だより」作成の留意点と作成の実際
2	「保健だより」作成の実際
3	「保健だより」作品発表 自己評価・他者評価
4	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際（1） 健康診断とは？
5	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際（2） 健康診断の事前指導・事後保健指導
6	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際（3） 視力・歯科・歯式の記録
7	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際（4） 尿検査・心電図検査等
8	専門講師による保健指導の実際
9	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際（5） 事前指導・事後保健指導（発表）
10	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際（6） 事前指導・事後保健指導（発表）
11	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際（7） 発表振り返り
12	定期健康診断事後処理の実際（1） 健康診断結果通知の作成
13	定期健康診断事後処理の実際（2） 管理が必要な児童生徒への保健指導
14	定期健康診断事後処理の実際（3） 管理が必要な児童生徒への保健指導 肥満・視力低下等
15	定期健康診断事後処理の実際（4） 健康診断票の記録・保管・測定値の統計処理・まとめ

評価

レポートおよび資料作成の提出と内容7割、演習への取組み態度3割とし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】提出されたレポート等はコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】3年次前期までに履修をした専門科目を中心に、その概要を確認しておくこと。

【事後学修】これまでの学習してきた内容に、その都度内容を追加しながらポイントを理解すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

「児童生徒等の健康診断マニュアル」平成27年度版 日本学校保健会

「養護概説」 采女智津江他 少年写真新聞社

「学校保健の課題とその対応」 公益法人日本学校保健会

「学校保健実務必携」 学校保健・安全実務研究会 第一法規株式会社

科目名	教育実習		
担当教員名	齋藤 忍		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	3
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法に定める特別支援学校教員免許を取得するための「教育実習」を含む3単位の相当します。

科目の概要

教科教育法や教職関連科目等によって習得してきた教職に関する知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うに当たっての具体的な事前・事後の指導を行います。

学修目標（＝到達目標）

本科目の学修により、参観実習及び教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指す者としての責任を自覚し、実際の授業運営能力を向上させることができる。

内容

1 事前指導（8時限相当の時間を配当する）

- （1）教育実習オリエンテーション
- （2）実習時における服務、勤務の心得
- （3）実習記録の作成法
- （4）授業の構成と指導案の作成
- （5）実習校の訪問

2 教育実習協力校における2週間の教育実習

3 中間指導（4時限相当の時間を配当する）

- （1）実習時における課題の把握
- （2）実習日誌の中間提出
- （3）研究授業及び実習についての指導

4 事後指導（3時限相当の時間を配当する）

- （1）教育実習の総括的反省と今後の課題
- （2）実習校の訪問

評価

実習校からの評価を参考に100点満点で評定し、60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前準備】 資料に基づき、教育実習に向けた心構え、教師として身につけておくべきこと等を整理する。また、教育実習に向けて、各自の課題を整理し、事前指導の中で検討できるようにする。

【事後学修】 教育実習の総括的反省を行い、卒業までの学びの中で、課題を解決できるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

「実習の手引き」及び「実習日誌」を配付します。その他については、授業の際に支持をします。